Vene Investment

Venezuela Weekly Report

No.４２８　２０２５年１０月１５日（水曜）

（写真）画像生成 AI「seadream4.0」にて作成　“賞を受賞するマリア・コリナ・マチャド氏（写真はイメージ）”

マリア・コリナ・マチャド

株式会社ベネインベストメント
松浦　健太郎

１０月１０日　ベネズエラの野党のリーダーであり、人権活動家のマリア・コリナ・マチャド氏がノーベル平和賞を受賞した。

トランプ大統領がノーベル平和賞の獲得を熱望しており、誰がノーベル平和賞に選ばれるのか注目が集まる中での MCM 氏の受賞であり、久しぶりにベネズエラが世界的に注目を浴びるニュースとなった。

この機会に、改めてマリア・コリナ・マチャド氏の経歴を可能な限り詳細に紹介してみたい。

植民地時代から貴族のスーパーエリート

MCM 氏は１９６７年１０月７日（現在５８歳）、カラカス生まれ。
４人姉妹の長女として生まれた。

彼女の父は、重工業・製造業の実業家で、特に金属・鉄鋼産業で活躍した Enrique Machado Zuloaga 氏。
母は心理学者であり、ベネズエラ国内では著名な元テニスプレーヤーの Corina Parisca Pérez 氏。

MCM 氏は、１９００年代初頭にベネズエラ外相、内務大臣を務めた Eduardo Blanco 氏の玄孫（やしゃご＝孫の孫）。同じく１９００年代初頭にベネズエラの銀行家・実業家（特に金融／重工業分野）として活躍した Ricardo Zuloaga 氏の血縁者でもある。

他、MCM の父の伯父にあたる Armando Zuloaga 氏は、軍事独裁政権と言われた Juan Vicente Gómez 政権に反発し、暗殺された政治家である。

更に遡ると、１８００年代にベネズエラ外相・財務相を務めた Fermín Toro 氏、１７００年代には南米の解放者であるシモン・ボリバルの妻 María Teresa del Toro Alayza 氏との血縁関係があるとされている。

MCM 氏の家系は植民地時代の貴族階級（伯爵級）。ベネズエラの歴史に名を残す人物を多く輩出した生粋の超エリート家の出身者である。

離婚を経験、３人の子供の母親

MCM 氏は１９９０年に企業家 Ricardo Sosa Branger 氏と結婚したが、２００１年に離婚している。

離婚理由は不明だが、MCM 氏は２０００年頃から本格的に政治の世界に身を投じるようになった。また、故チャベス元大統領がベネズエラ大統領に就任したのは１９９９年。この時期は彼女のターニングポイントになる時期だったと言える。

MCM 氏は３人の子供の母親。
名前はそれぞれ、Ana Corina (長女)、Ricardo (長男)、Henrique (次男)。

長女の Ana Corina Sosa Machado 氏は、米国（ニューヨーク）で暮らしており、海外で行われる政治イベントに MCM 氏の代理的な位置づけで度々参加しており、メディアの露出は多い。

Ricardo 氏、Henrique 氏はほとんどメディアに露出していないが、Ana Corina 氏がソーシャルメディアに家族写真を投稿したことがある（右上の写真）。

（写真）Ana Corina Sosa Machado 氏 Instagram

また、ウェブメディア Redomas によると、Ricardo 氏は長女と同じくニューヨークに住んでおり、Henrique 氏はコロンビアに住んでいるという（２０２５年１月時点の情報）。

基本的にベネズエラ国内で修業

MCM 氏の学歴で確認できているのは以下の通り。

MCM 氏は、カラカスにあるカトリック系のエリート女学校に通っていた。

大学は、ベネズエラの「アンドレス・ベジョ・カトリック大学（UCAB)」の工業工学部卒（９０年卒)。

ベネズエラのビジネス大学院「高等学術研究所（IESA)」にて金融学を専攻し、卒業（９９年卒)。

他、米国イェール大学の公共政策・リーダーシップ形成国際交流プログラム「World Fellows Program」にも参加している（２００９年参加)。

米国イェール大学の公共政策・リーダーシップ形成国際交流プログラムは一時的な学業経験であることを踏まえると、MCM 氏は基本的にベネズエラ国内で修業している。

エンジニア → 財団創設 → 大学教授

MCM 氏は１９９０年に UCAB 卒業後、ベネズエラ・バレンシアの自動車部品会社「Gates de Venezuela」「Filtros Wix」で勤務。

その２年後の９２年に母親の Corina Parisca Pérez 氏と貧困児童・孤児らの支援を行う財団「Fundación Atenea」を設立。貧困支援活動に従事した。

また、１９９３年に UCAB 工業技術科の人材開発テーマの教授を務めると同時に IESA にて金融を専攻し、１９９９年に卒業。

その後、本格的に政治の世界へ足を踏み入れることになる。

選挙監視団体の設立から政界へ

MCM 氏の政治活動は、ベネズエラの選挙制度に疑念を呈する活動から始まっている。

MCM 氏は２００２年に選挙監視、民主主義プロセスの促進を目的とする非政府系組織「Súmate」を設立。２００４年の故チャベス元大統領の罷免投票の際に罷免投票の実施を呼びかける中心的役割を果たした。

また、Súmate はベネズエラの選挙制度の透明性を巡る疑念を喚起したことで故チャベス政権から目を付けられるようになる。

２００５年に MCM 氏は米国のブッシュ大統領 （当時）から招待を受け、ホワイトハウスにて１時間ほどベネズエラ問題について議論を交わした。

（写真）Fenix951

これを受けて、故チャベス政権による MCM 氏への圧力は更に加速。検察庁は、MCM 氏が「米国中央情報局（CIA)」の流れを汲む米国「全米民主主義基金（NED)」から資金を受けたと訴え、３年間の国外渡航禁止を命じた。

国会議員当選と議員権のはく奪

MCM 氏は２０１０年に Súmate 代表を辞任し、国会議員選にミランダ州選挙区から出馬。反チャベス派の支持を受け、歴史的とも評される高い得票数で国会議員に当選した（就任は２０１１年)。また、２０１２年に自身の政党「Vente Venezuela」を発足している。

（写真）Analitica
“国会に出席する MCM 氏（２０１４年当時）”

議員在任中は故チャベス政権を強く批判し、故チャベス政権との対立を更に加速。野党グループの中でも「過激派」として認識されるようになった。

そして、２０１４年に MCM 氏は「米州機構（OAS)」の会合に出席。
パナマ政府から特別大使の称号を受けたが、これがベネズエラの憲法１４９条（国会議員は、国会での事前の許可なく、他国の公職に就いてはいけない）に抵触するとして、最高裁は MCM 氏の国会議員の資格をはく奪した。

議員権はく奪後は野党のアウトサイダー

議員権はく奪後も MCM 氏は野党政治家の１人として活動を続けたが、しばらくは「第一正義党（PJ)」「大衆意思党（VP)」「新時代党（UNT)」「行動民主党（AD)」の４党を中心とする主要野党グループが野党の舵取りを続けた。

MCM 氏は重要な野党政治家の１人であり続けたが、２０１４年～２０２２年までは主要野党と対立する第３勢力といった存在で、野党政治のアウトサイダーというような位置付けだった。

２０２０年には主要野党により発足したグアイド暫定政権を痛烈に批判する意見書を公表している（「ウィークリーレポート No.164」)。

このグアイド暫定政権は、欧米諸国から強い支援を受けたが、政権交代を実現できず、求心力は徐々に低下。２０２３年にグアイド暫定政権が消滅したことで主要野党の政治的な求心力は地に落ちた。

そして、主要野党グループへの期待を失った反マドゥロ勢力の支持が MCM 氏へ流れ、現在に至っている。

予備選挙を経て正式な野党リーダーに

MCM 氏が野党のリーダーとしての地位を確立したのは２０２３年１０月の予備選挙（２０２４年の大統領選の野党統一候補を決めるための野党内の選挙)。

この選挙で、MCM 氏は得票率９２．６％という圧倒的な支持を得て勝利。野党統一候補に選ばれた。

なお、この予備選挙は MCM 氏が代表を務めていた Súmate が運営を指揮していたと言われており、運営の中立性に関する疑問の声は存在した。

代理候補を立てて大統領選に参加

予備選挙の段階で、MCM 氏は公職権停止措置を受けており、２０２４年の大統領選に出馬できないことは判明していた。

MCM 氏を中心とする野党グループは国際社会の仲介を受けてマドゥロ政権と与野党協議を実施。

MCM 氏の出馬の可能性を模索したが、結局大統領選へ出馬することはできず、紆余曲折の末にエドムンド・ゴンサレス氏が MCM 氏の代理候補として出馬することが決定した。

エドムンド・ゴンサレス候補は、体力と年齢的な理由もあり、ゴンサレス候補自身の選挙活動はそこまで多くなかった。

全国を周り支持者に投票を呼び掛ける、メディアでのＰＲを行うなどの選挙キャンペーンは MCM 氏が行っていた（「ウィークリーレポート No.362」)。

ゴンサレス候補の当選主張　国内で潜伏中

２０２４年７月に大統領選が行われ、「選挙管理委員会（CNE）」はマドゥロ大統領の当選を発表した（「ウィークリーレポート No.366」）。

一方で、野党側は CNE による票操作を指摘。
ゴンサレス候補の当選を主張し、投票の根拠となる投票レシートの一部を公表し、独自のウェブサイトで投票詳細を公表するなど主張の信頼性向上に努めた（「ウィークリーレポート No.367」）。

これに対して、マドゥロ政権は、虚偽の情報を流布し、社会秩序を乱したとの理由から野党への圧力を強化。

ゴンサレス候補はマドゥロ政権との協議の結果、スペインへ亡命。MCM 氏はベネズエラ国内での潜伏を余儀なくされ、この状況は現在も続いている。

MCM 氏の潜伏先は不明だが、在ベネズエラ米国大使館に潜伏しているとの噂は報じられている。

MCM 氏はニュース番組や国際イベントにオンラインで出演しており、政権交代のための政治活動を継続している。

マドゥロ政権が MCM 氏の潜伏先を本当に知らないとは考えにい。MCM 氏が本当にベネズエラ国内にいるとすれば、何らかの政治的な合意の上で、MCM 氏の身の安全と活動を認めていると考えるのが妥当だろう。

以上